

2020/04/12

## 「神からの信仰」

「しかし、わたしが与える水を飲む者はだれでも、決して渴くことはありません。わたしが与える水は、その人のうちで泉となり、永遠のいのちへの水がわき出ます。」  
(ヨハネ 4:14)

ここでイエス様が言われた「水」とは、「信仰」と置き換えることができます。「信仰」は、私たちに永遠に渴くことの平安をもたらし、私たちを永遠のいのちの確信に導きます。永遠のいのちの確信とは、イエス様が復活したように、自分もよみがえって永遠に生きることができるという確信です。それが私たちを死の恐怖から解放します。

今、新型コロナウイルスの感染と世界中が闘っていますが、たとえ感染を免れたとしても、すべての人に死は訪れます。ですから、本当に大切なことは、死の先に何を見るかということです。もし、私たちに信仰がなければ、死の先には恐怖しかありません。しかし、神から与えられた信仰を生かして死を見るなら、その先に見えるのは永遠のいのちという希望です。

「信仰」は、神が与えてくださる、私たちに不可欠な水です。この水がなければ私たちは滅んでしまいます。信仰を受け取ると永遠に生きることができるようになります。これこそが真の安心なのです。

### ■ 「信仰」とは何を信じることなのか

「主はみことばを送って彼らをいやし、その滅びの穴から彼らを助け出された。」  
(詩篇 107:20)

神は、私たちが信じるものとして、御言葉を与えてくださいました。それは、私たちを癒し助けるためです。私たちは皆、死という病にかかり、この病のせいで不安になり、見える安心をむさぼるという罪を犯しています。この病をいやし、さらに永遠のいのちの確信を与えて死の恐怖から助け出すことが、神が私たちに御言葉をお与えになった目的です。神から与えられた御言葉を信じる信仰は、私たちに平安を与え、まことのいのちに導きます。

「彼らは、主の恵みと、人の子らへの奇しいわざを主に感謝せよ。彼らは、感謝のいけにえをささげ、喜び叫びながら主のみわざを語れ。」(詩篇 107:21-22)

これが、イースターです。神のみわざとは、神ご自身が十字架に架かってよみがえられたということです。私たちは、このことを信じられる信仰をいただいたことを感謝し、語りましょう。私たちの理性では、死んだ人がよみがえるなどということは、とうてい信じられな

いことです。ところが、私たちは、それを信じることができました。それは、神からの水を飲んだからです。つまり、神から信仰をいただいたから、信じることができましたのです。そして、御言葉を食べさせていただくことで、平安が増し加わり続けます。この神のみわざである十字架を語って感謝をささげるのが、イースターなのです。

## ■「御言葉」は何を語っているか

神が私たちに信仰で食べよと言った御言葉は、大きく二つに分類されます。それは、「戒め」と「約束」です。「戒め」とは、「～～してはいけない」「～～せよ」といった神からの命令です。そして、「約束」とは、「わたしがあなたを守るから大丈夫だ」という約束です。なぜこの二つがあるのでしょうか。

「戒め」の目的はただ一つ、すべての人を罪人として閉じ込めることです。なぜそれが人を癒すことになるのか、それは、自分の無力さに気づかない人は、神の約束など心にとめないからです。自分是可以る、自分は大丈夫だと思っている人は、神の助けが必要だとは思いません。そこで、神は戒めを与え、自分の無力さに気づかせようとしておられるのです。なぜなら、神は私たちに、どうしてもご自身が与える恵みと祝福を受け取ってもらいたいと望んでおられるからです。

神の戒めを実行しようとする、必ず、それを実行することができない罪深い自分が見えてきて、己の無力さを知ることになります。もし私たちが、自分の力で戒めを実行できたとすると、「私はあなたの戒めを守りました。断食もしたし、献金もしたし、人を愛し、人々から良い人だと評価もされました。だからご褒美にあなたの祝福をください。」と求めることになります。しかし、自分の力では実行できないと知るとき、神の祝福を受けるためには、「主よ、私は自分の力では自分をどうすることもできません。だからあなたの恵みにあずかせてください。」と憐れみを求めるしかありません。神が求めているのは後者です。これが、神の約束を信仰で受け取るということです。

世の中は、成果主義が当たり前、成功した者が報酬を受け取ることが当たり前になっています。しかし、神はそういうことで人を祝福しようとは、まったく思っていないと思います。ですから、戒めをお与えになったのです。

あるとき、イエス様のところに青年が来て、「永遠のいのちをいただくには何をすればよいでしょうか」と尋ねました。するとイエス様は「戒めを実行しなさい」と言われました。青年が「戒めは子どもの頃から守っています」と答えると、イエス様は「あなたの全財産を貧しい人に施しなさい」と言われました。青年はそれを実行することができず、暗い顔をして去っていきました。

戒めを通して自分が無力であることに気づき、神にすがるようになってほしいと、神は私たちに望んでおられるのです。それは、どうかして私たちを助けたいという思いによるものです。

神が「戒め」と「約束」の二つを御言葉として与え、信仰を与えて下さったのは、神の約束を自分が頑張った報酬・報いとして受け取るのではなく、信仰で受け取ってほしいからです。

神はへりくだるものを愛されます。つまり、「自分は無力だ」と、自分に絶望するあなたは幸いです。

「なぜなら、神は、すべての人をあわれもうとして、すべての人を不従順のうちに閉じ込められたからです。ああ、神の知恵と知識との富は、何と底知れず深いことでしょう。そのさばきは、何と知り尽くしがたく、その道は、何と測り知りがたいことでしょう。なぜなら、だれが主のみこころを知ったのですか。また、だれが主のご計画にあずかったのですか。また、だれが、まず主に与えて報いを受けるのですか。というのは、すべてのことが、神から発し、神によって成り、神に至るからです。どうか、この神に、栄光がとこしえにありますように。アーメン。」（ローマ 11:32-36）

神の恵みは信仰で受け取るものであるため、神は戒めを与えられました。その戒めによって、本当にあなたが絶望すれば、神にへりくだり、神に助けを乞うようになります。もし、そうでなければ、それはただ謙遜なふりをしただけです。神に助けを乞い、神からの御言葉を食べ、水を飲むなら、私たちに平安が訪れ、永遠のいのちへの確信に至るのです。

## ■神の水を飲むとは

### 1. わたしはあなたと永遠に契りを結ぶ

「正義と公義と、恵みとあわれみをもって、契りを結ぶ。わたしは真実をもってあなたと契りを結ぶ。このとき、あなたは主を知ろう。」（ホセア 2:19-20）

神を信じるとは、神と一つになることです。私たちと神とは一つだと聖書は繰り返し教えています。神は、これを「永遠の契り」すなわち「結婚」と同じだと言われました。神と一体となることが神を信じるスタートであり、バプテスマは結婚式です。では、一つとなったらどんなことが起きるのでしょうか。聖書にのっとり、夫婦になぞらえて、考えてみましょう。

### 2. すべてのものが共有となる

夫婦になると、良いものであれ、悪いものであれ、共有するようになります。人間が持っているものは、罪と死です。悪いことを考え、神に逆らってしまう、これを悪と言います。かたや、神は愛を持っておられます。赦しと永遠のいのちを持っておられます。これが善です。

神が私たちの悪を共有するとは、私たちの罪を背負うということです。神はあなたのすべての問題を背負ってくださいます。そして、私たちは神のものを全部いただくことができます。

### 3. 互いに補うようになる

神は私たちと永遠の契りを交わしたので、私たちの持っているもの、罪も悪も死も全部背負って補ってくださいます。神は私たちの罪を拒むことができないのです。

そして、私たちは神の持ち物を全部所有し、神の永遠のいのち、愛、赦しを持ったのです。神が持っているものをすべて持っている信じること、これが信仰です。

聖書は、夫婦の関係と教会とキリストの関係、そして、キリストとあなたの関係は同じであるということを、次のように教えています。

「夫たちよ。キリストが教会を愛し、教会のためにご自身をささげられたように、あなたがたも、自分の妻を愛しなさい。キリストがそうされたのは、みことばにより、水の洗いをもって、教会をきよめて聖なるものとするためであり、ご自身で、しみや、しわや、そのようなものの何一つない、聖く傷のないものとなった栄光の教会を、ご自分の前に立たせるためです。そのように、夫も自分の妻を自分のからだのように愛さなければなりません。自分の妻を愛する者は自分を愛しているのです。だれも自分の身を憎んだ者はいません。かえって、これを養い育てます。それはキリストが教会をそうされたのと同じです。私たちはキリストのからだの部分だからです。「それゆえ、人は父と母を離れ、その妻と結ばれ、ふたりは一体となる。」この奥義は偉大です。私は、キリストと教会とをさして言っているのです。」(エペソ 5:25-32)

なぜこの奥義は偉大だと言えるのでしょうか。それは、神は私たちを清め、重荷を背負うために、私たちと永遠の契りを交わされたからです。

神と私たちが永遠の契りを交わしたという事実があるからこそ、夫は妻を愛し、私たちは互いに愛し合う必要があるのです。それは、神は愛であって、神が私たちと運命を共にしておられるからです。

罪や死の恐怖や困難がどんなに私たちを責めてきたとしても、これが神と私たちの関係なのだ信じること、立ち向かうことができるのです。神とあなたは一つとなり、あなたの重荷はすべて神が引き受けてくださいました。あなたはただ神のものを受け取ればよいのです。

これが神と私たちの関係であればこそ、人との関係もそうありなさい、と神は教えておられるのです。

#### ■神のものはすべてあなたのもの

放蕩息子のたとえ話の中で、宴会を開いてもらっている弟を見た兄が、「自分はまじめにお父さんに仕えてきたのに、お父さんは何もくれたことがない」と怒ったことに対して、父親は、「お前はいつも私とともにいる。私のものはすべてお前のものじゃないか」と語りかけます。

放蕩息子の兄は、その事実にもまったく気づいていなかったわけですが、私たちも同じです。

この言葉の意味を理解していないことが問題なのです。

あなたは神のものをすべて持っています。それは、死んでもよみがえる永遠のいのちです。命に勝るものはありません。それなのに、人と自分を比べ、自分は何も神からもらっていないかのように、人のものをうらやましがったり、自分をさげすんだりしています。

神から永遠のいのちをいただいているにもかかわらず、ほかの人と比べるのは、せっかく持っている宝を落とすようなものです。そのような私たちが、御言葉を通して自分の無力さに気づくなら、神の恵みに気づくことができます。そのために神は信仰を与えてくださったのです。

「もし私たちが、キリストにつき合わされて、キリストの死と同じようになっているのなら、必ずキリストの復活とも同じようになるからです。」(ローマ 6:5)

私たちは神と永遠の契りを交わし、一つになりました。キリストにつき合わされた私たちは、キリストが十字架にかけられたように、死ぬ時がやってきます。しかし、キリストが復活したように復活するのです。神からいただいた信仰によって、私たちはそのことを信じました。イースターは、その信仰をもう一度確認し、その信仰を目指すことを確認する日です。

私たちは、死からの復活を信じています。死よりも困難なものはありません。ですから私たちは、その他あらゆる困難に打ち勝つ希望を持つことができるのです。神が与えてくださった信仰は、そういう信仰です。

私たちは神とちぎりを交わし、神と一つです。私は神のものをすべて持っている、キリストが十字架で死んで復活したように、私は死んでも生きるのだ、そのことを信じることができれば幸いです。

「私たちは、キリストの死にあずかるバプテスマによって、キリストとともに葬られたのです。それは、キリストが御父の栄光によって死者の中からよみがえられたように、私たちも、いのちにあって新しい歩みをするためです。」(ローマ 6:4)